

# 「生成AIを活用」33.4% 効果を実感するも、 正確性や運用ルールに課題

文章作成や情報収集を中心に利用は進むが、  
格差拡大や検証負担を懸念

## 中国地方・生成 AI に関する企業の動向調査（2026年3月）



本件照会先

牧 秀樹、松岡 静生、玄道 一成  
帝国データバンク  
広島支店 情報部  
TEL:082-247-5930(直通)  
info.hiroshima@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/06/05

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。  
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

中国地方の企業において、生成AIを業務で『活用している』企業は 33.4%を占めた。活用企業では、業務への『効果あり』が 85.5%にのぼる。主な活用業務は、「文章の作成・要約・校正」が 44.8%でトップ、「情報収集」「企画立案時のアイデア出し」が続く。悪影響・トラブルは「ない」が 68.8%で最多であった一方で、「能力や成果の格差拡大」が 16.3%となった。懸念・課題では、「情報の正確性」が 50.2%で最も高く、「活用すべき業務の範囲」「専門人材・ノウハウ不足」「情報漏洩のリスク」が続いた。

※帝国データバンクでは、「生成AI」に関する企業の動向調査を実施し、

広島支店で中国地方に本社を置く企業の結果を集計・分析した。

調査期間:2026年3月17日~3月31日

調査対象:中国地方の1715社で、有効回答企業数は661社(回答率38.5%)

# 1. 生成AIを活用する企業 33.4%、大企業ほど高く

生成AIは限られた人員で生産性を向上させる手段の一つとして、業務効率化や人手不足の緩和が期待されている。一方で、情報の正確性や情報管理、運用ルールの整備など多面的な論点が指摘されている。中国地方の企業に対して、生成AIの業務活用について尋ねたところ、『活用している』企業は、661社中221社、構成比33.4%を占めた。内訳は、「非常に活用している」が3.8%(25社)、「やや活用している」が29.7%(196社)。一方で、「あまり活用していない」は12.0%(79社)、「ほとんど活用していない」は26.5%(175社)となり、低活用層は4割近くを占めた。また、「いまは活用していないが、今後の活用を検討している」は12.3%(81社)で、活用余地を残す企業も一定数存在する。なお、「活用を禁止している」企業は0.5%(3社)にとどまった。生成AIはすでに一定程度広がっているものの、企業全体としてはなお移行期にあるとみられる。

## ○『活用している』について

全国と比較すると、「全国」(構成比34.5%・3560社)より1.1ポイント低かった。

規模別では、「大企業」(42.7%・38社)、「中小企業」(32.0%・183社)、「小規模企業」(29.5%・62社)の順に高く、規模が大きいほど活用率が高かった。

業種別(母数20社以上)では、「サービス」(48.2%・54社)が最も高く、「建設」(33.7%・33社)、「製造」(33.0%・59社)が続いた。

中国5県別では、「山口」(36.9%・45社)が最も高く、「広島」(34.7%・82社)、「岡山」(32.9%・50社)が続いた。

## 生成AIの活用状況

(構成比%、カッコ内社数)

	非常に活用している	やや活用している	活用している	あまり活用していない	ほとんど活用していない	いまは活用していないが、今後の活用を検討している	いまは活用しておらず、今後も活用する予定はない	活用を禁止している	分からない	合計
全国	4.4 (450)	30.2 (3,110)	34.5 (3,560)	13.6 (1,400)	23.3 (2,403)	14.2 (1,466)	8.6 (886)	0.4 (40)	5.4 (557)	100.0 (10,312)
中国	3.8 (25)	29.7 (196)	33.4 (221)	12.0 (79)	26.5 (175)	12.3 (81)	10.0 (66)	0.5 (3)	5.4 (36)	100.0 (661)
大企業	4.5 (4)	38.2 (34)	42.7 (38)	12.4 (11)	24.7 (22)	13.5 (12)	2.2 (2)	0.0 (0)	4.5 (4)	100.0 (89)
中小企業	3.7 (21)	28.3 (162)	32.0 (183)	11.9 (68)	26.7 (153)	12.1 (69)	11.2 (64)	0.5 (3)	5.6 (32)	100.0 (572)
小規模企業	1.9 (4)	27.6 (58)	29.5 (62)	7.1 (15)	28.1 (59)	13.3 (28)	14.3 (30)	1.0 (2)	6.7 (14)	100.0 (210)
農・林・水産	20.0 (2)	20.0 (2)	40.0 (4)	0.0 (0)	30.0 (3)	20.0 (2)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (10)
金融	0.0 (0)	22.2 (2)	22.2 (2)	44.4 (4)	11.1 (1)	22.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (9)
建設	4.1 (4)	29.6 (29)	33.7 (33)	11.2 (11)	32.7 (32)	6.1 (6)	10.2 (10)	0.0 (0)	6.1 (6)	100.0 (98)
不動産	0.0 (0)	30.0 (6)	30.0 (6)	0.0 (0)	35.0 (7)	10.0 (2)	20.0 (4)	0.0 (0)	5.0 (1)	100.0 (20)
製造	0.0 (0)	33.0 (59)	33.0 (59)	8.9 (16)	27.9 (50)	14.0 (25)	8.4 (15)	1.1 (2)	6.7 (12)	100.0 (179)
卸売	2.1 (3)	23.9 (34)	26.1 (37)	15.5 (22)	29.6 (42)	14.1 (20)	9.9 (14)	0.7 (1)	4.2 (6)	100.0 (142)
小売	4.8 (3)	25.4 (16)	30.2 (19)	9.5 (6)	25.4 (16)	11.1 (7)	14.3 (9)	0.0 (0)	9.5 (6)	100.0 (63)
運輸・倉庫	0.0 (0)	19.2 (5)	19.2 (5)	15.4 (4)	26.9 (7)	7.7 (2)	23.1 (6)	0.0 (0)	7.7 (2)	100.0 (26)
サービス	11.6 (13)	36.6 (41)	48.2 (54)	14.3 (16)	15.2 (17)	13.4 (15)	6.3 (7)	0.0 (0)	2.7 (3)	100.0 (112)
その他	0.0 (0)	100.0 (2)	100.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (2)
鳥取	3.4 (2)	20.7 (12)	24.1 (14)	13.8 (8)	25.9 (15)	19.0 (11)	13.8 (8)	0.0 (0)	3.4 (2)	100.0 (58)
島根	2.2 (2)	30.1 (28)	32.3 (30)	8.6 (8)	23.7 (22)	12.9 (12)	11.8 (11)	1.1 (1)	9.7 (9)	100.0 (93)
岡山	5.3 (8)	27.6 (42)	32.9 (50)	9.9 (15)	26.3 (40)	15.8 (24)	8.6 (13)	1.3 (2)	5.3 (8)	100.0 (152)
広島	3.8 (9)	30.9 (73)	34.7 (82)	16.1 (38)	24.6 (58)	10.2 (24)	9.7 (23)	0.0 (0)	4.7 (11)	100.0 (236)
山口	3.3 (4)	33.6 (41)	36.9 (45)	8.2 (10)	32.8 (40)	8.2 (10)	9.0 (11)	0.0 (0)	4.9 (6)	100.0 (122)

注1: 網掛けは、中国地方の全体以上を表す

注2: 全国の母数は有効回答企業1万312社。中国は661社

## 2. 業務への効果、85.5%が「ある」と実感

生成 AI を「非常に活用している」「やや活用している」企業 221 社に対して、業務への効果を尋ねたところ、『効果あり』は構成比 85.5% (189 社) に達した。内訳は、「大いに効果が出ている」が 24.4% (54 社)、「やや効果が出ている」が 61.1% (135 社)。一方、「どちらともいえない」は 11.3% (25 社) となった。なお、「あまり効果が出ていない」「ほとんど効果が出ていない」はなかった。生成 AI を実際に使っている企業の多くは、何らかの効果を実感しているといえる。

### ○『効果あり』について

全国と比較すると、「全国」(構成比 86.7%・3087 社) より 1.2 ポイント低かった。

規模別では、「中小企業」(86.3%・158 社)、「小規模企業」(83.9%・52 社)、「大企業」(81.6%・31 社)の順に高かった。

業種別(母数 5 社以上)では、「不動産」(100%・6 社)が最も高く、「小売」(89.5%・17 社)、「製造」(86.4%・51 社)が続いた。

中国 5 県別では、「鳥取」(100%・14 社)が最も高く、「岡山」(90.0%・45 社)、「広島」(87.8%・72 社)が続いた。

### 業務への効果

(構成比%、カッコ内社数)

	大いに効果が出ている	やや効果が出ている	効果あり	どちらともいえない	あまり効果が出ていない	ほとんど効果が出ていない	分らない	不回答	合計
全国	25.2 (897)	61.5 (2,190)	86.7 (3,087)	10.3 (367)	0.9 (32)	0.1 (5)	0.8 (29)	1.1 (40)	100.0 (3,560)
中国	24.4 (54)	61.1 (135)	85.5 (189)	11.3 (25)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (2)	2.3 (5)	100.0 (221)
大企業	18.4 (7)	63.2 (24)	81.6 (31)	15.8 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (1)	0.0 (0)	100.0 (38)
中小企業	25.7 (47)	60.7 (111)	86.3 (158)	10.4 (19)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.5 (1)	2.7 (5)	100.0 (183)
小規模企業	29.0 (18)	54.8 (34)	83.9 (52)	11.3 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (3)	100.0 (62)
農・林・水産	75.0 (3)	25.0 (1)	100.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (4)
金融	50.0 (1)	50.0 (1)	100.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (2)
建設	30.3 (10)	54.5 (18)	84.8 (28)	12.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	100.0 (33)
不動産	16.7 (1)	83.3 (5)	100.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (6)
製造	16.9 (10)	69.5 (41)	86.4 (51)	10.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.7 (1)	1.7 (1)	100.0 (59)
卸売	24.3 (9)	59.5 (22)	83.8 (31)	10.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.4 (2)	100.0 (37)
小売	21.1 (4)	68.4 (13)	89.5 (17)	10.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (19)
運輸・倉庫	0.0 (0)	60.0 (3)	60.0 (3)	20.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	20.0 (1)	0.0 (0)	100.0 (5)
サービス	27.8 (15)	55.6 (30)	83.3 (45)	14.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (1)	100.0 (54)
その他	50.0 (1)	50.0 (1)	100.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (2)
鳥取	28.6 (4)	71.4 (10)	100.0 (14)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (14)
島根	20.0 (6)	53.3 (16)	73.3 (22)	23.3 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (1)	100.0 (30)
岡山	28.0 (14)	62.0 (31)	90.0 (45)	10.0 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (50)
広島	23.2 (19)	64.6 (53)	87.8 (72)	9.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	1.2 (1)	100.0 (82)
山口	24.4 (11)	55.6 (25)	80.0 (36)	11.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (1)	6.7 (3)	100.0 (45)

注1: 網掛けは、中国地方の全体以上を表す

注2: 全国の母数は、活用状況で「非常に活用している」「やや活用している」のいずれかを回答した企業3,560社。中国は221社

### 3. 主な活用業務、「文章の作成・要約・校正」が44.8%でトップ

生成AIを業務で活用している企業 221 社に対して、主にどのような業務で活用しているか尋ねたところ、「文章の作成・要約・校正」が構成比 44.8% (99 社) で最も高かった。次いで、「情報収集」が 25.3% (56 社)、「企画立案時のアイデア出し」が 10.0% (22 社) で続いた。

一方、「コード生成などのプログラミング支援」は 6.3% (14 社)、「データの集計・分析」は 3.6% (8 社) にとどまった。現時点では全体として、生成AIは業務判断そのものの代替というより、情報整理や文章化など、判断の手前にある業務の補助として用いられている様子が見えてくる。

#### 主な活用業務

	中国地方 全体	規模別			業種別								
		大企業	中小企業	小規模企業	農・林・水産	金融	建設	不動産	製造	卸売	小売	運輸・倉庫	サービス
文章の作成・要約・校正	44.8	47.4	44.3	40.3	25.0	0.0	51.5	33.3	42.4	56.8	52.6	60.0	33.3
情報収集	25.3	31.6	24.0	33.9	25.0	50.0	27.3	50.0	23.7	16.2	31.6	20.0	27.8
企画立案時のアイデア出し	10.0	7.9	10.4	12.9	0.0	50.0	12.1	16.7	10.2	5.4	5.3	20.0	11.1
コード生成などのプログラミング支援	6.3	0.0	7.7	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	10.8	0.0	0.0	13.0
データの集計・分析	3.6	2.6	3.8	1.6	0.0	0.0	3.0	0.0	6.8	2.7	0.0	0.0	3.7
翻訳・外国語の文章の作成	3.2	5.3	2.7	1.6	0.0	0.0	6.1	0.0	3.4	5.4	0.0	0.0	1.9
新たな作業の手順確認	1.4	2.6	1.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	1.9
経理・経費計算などの事務の代行	1.4	0.0	1.6	3.2	25.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	5.3	0.0	0.0
社内向けヘルプデスク	1.4	2.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	5.3	0.0	1.9
顧客対応の自動化（カスタマーサポートなど）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.7	0.0	2.7	3.2	25.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	5.6

注：母数は、生成AIを『活用している』企業221社

### 4. 企業の68.8%が「悪影響やトラブルはない」とする一方、16.3%の企業が「能力や成果の格差拡大」を認識

生成AIを業務で活用している企業 221 社に対して、活用による悪影響やトラブルを尋ねたところ、「悪影響やトラブルはない」が構成比 68.8% (152 社) で最も高かった（複数回答、以下同）。次いで、「AIを使いこなせる社員と使いこなせない社員の間で、能力や成果の格差が拡大した」が 16.3% (36 社)、「社員から類似した意見や報告が出るようになり多様性が低下した」「社員が業務をAI任せにして、仕事への意欲やスキルが低下した」が各 5.9% (各 13 社)、「基礎的な業務をAIが担うようになり、若手が育たなくなった」が 3.2% (7 社)、「出力結果の誤りにより社内外でトラブルや損害が発生した」が 2.7% (6 社) で続いた。

#### 悪影響・トラブルの上位（複数回答）

	中国地方 全体	規模別		
		大企業	中小企業	小規模企業
悪影響やトラブルはない	68.8	71.1	68.3	64.5
AIを使いこなせる社員と使いこなせない社員の間で、能力や成果の格差が拡大した	16.3	15.8	16.4	12.9
社員から類似した意見や報告が出るようになり多様性が低下した	5.9	13.2	4.4	4.8
社員が業務をAI任せにして、仕事への意欲やスキルが低下した	5.9	2.6	6.6	9.7
基礎的な業務をAIが担うようになり、若手が育たなくなった	3.2	2.6	3.3	3.2
出力結果の誤りにより社内外でトラブルや損害が発生した	2.7	5.3	2.2	4.8

注：母数は、生成AIを『活用している』企業221社

## 5. 懸念・課題、「情報の正確性」が半数を占める

中国地方の企業661社に対して、生成AI活用に関する懸念・課題を尋ねたところ、「情報の正確性」が構成比50.2%(332社)で最も高かった(3つまでの複数回答、以下同)。次いで、「生成AIを活用すべき業務の範囲」が40.1%(265社)、「専門人材・ノウハウ不足」が39.2%(259社)、「情報漏洩のリスク」が32.2%(213社)、「トラブル時の責任所在などのルール整備」が22.5%(149社)が続いた。

### 懸念・課題 (3つまでの複数回答)

	中国地方 全体	規模別		
		大企業	中小企業	小規模企業
				(%)
情報の正確性	50.2	56.2	49.3	49.0
生成AIを活用すべき業務の範囲	40.1	44.9	39.3	33.3
専門人材・ノウハウ不足	39.2	41.6	38.8	32.4
情報漏洩のリスク	32.2	31.5	32.3	28.1
トラブル時の責任所在などのルール整備	22.5	25.8	22.0	17.1
著作権・プライバシー保護など法的規制	18.8	25.8	17.7	18.6
システム導入への資金不足	13.3	11.2	13.6	16.2
懸念や課題はない	3.8	2.2	4.0	7.1
その他	1.5	1.1	1.6	2.9

注：母数は、有効回答企業661社

## 企業からの声

- ・事実に基づいていない情報を生成していることに気付かなかった (教育サービス・広島)
- ・音声データによる議事録作成、作業フローの素案づくりに活用 (建設・広島)
- ・無料版を利用するうえで、社内の重要情報を外部に出さないことに注意 (建設・広島)
- ・税理士や社労士などに聞くほどもないが、知りたいことをAIに尋ねている (メンテナンス・岡山)
- ・PRやマーケティングにおけるメディアへの訴求案の作成時に活用している (旅館・岡山)
- ・今後、情報漏洩や個人の権利侵害などのリスクが懸念される (建設・島根)
- ・情報がやや遅れていたり、多少違ったりするので最終的には確認作業が必須 (食品製造・山口)
- ・まだまだ個人の範疇でしか使用していない (不動産・広島)
- ・ほぼ想定内の答えが出てくるが、疑問がある場合は複数の人間で確認している (メンテナンス・岡山)
- ・作り出したものが著作権などに引っかかっていないか、調べる手順が不明 (農林水産・山口)
- ・生成AIの普及により、生産性の低い人員を削減する流れが強まると考える (建設・山口)
- ・使いこなせるようにならないと仕事を失うような漠然とした不安を感じる (製造・岡山)
- ・専門分野ではAIの回答を過信しないこと。使用ガイドラインの作成も必要 (メンテナンス・山口)
- ・商品企画に導入する予定はあるが、実用化するまではまだ時間がかかる (繊維品卸・広島)
- ・社内での運用ルールのほか、委託先や使用ソフトからの情報漏洩が気になる (メンテナンス・岡山)
- ・我々の職業にどのように使えるか未だに不明 (専門サービス・岡山)
- ・知識不足や具体例が少ないため、中小企業で活用できる業務のイメージが湧かない (建設・山口)
- ・業種的にあまり活用する機会がない (サービス・岡山)
- ・それどころではない (繊維品製造・広島)